

学力向上チャレンジ校だより

平成 29 年 1 月 31 日
(八次中学校区研究推進地域 第 9 号)

第 10 回研究授業及び研究協議会へのご参加ありがとうございました。今回の協議会の内容や指導助言を以下にまとめております。全教科・全教職員で研究を推進していきましょう。

【第 10 回研究授業（算数）】 日 時：平成 29 年 1 月 19 日（木）

単元名：直方体と立方体 ～箱の形を調べよう～

指導者：八次小学校 村上千佳子 教諭

★授業で提案した指導改善のポイント

★学習課題…実物や模型、ICT を使った提示を行うことで学習意欲を高める。

★協同学習…正しい用語や構成要素を使って、考えを共有・補充するペア学習を行う。



【研究協議会】

○デジタルコンテンツなど ICT の活用が有効であった。

特に、児童のノートの提示や、図形の回転などが効果的であった。

○直方体や立方体などの模型があり、具体物の操作があることで自分の考えが持ちやすかった。

○既習事項の活用が設定されており、意欲的に学習に取り組んでいた。

●「～ずつ」などの言葉が先行してしまった。また、ねらいにある「特徴」という言葉が捉えにくかった。

→（改善案）同じ面がどこにあるかなど、考えることの焦点化や発問の精選を図る。

●立体の違いをより明確に理解させるとよかった。

→（改善案）直方体を 1 つにすることで、立方体と直方体の 2 つを比較する。

指導助言

<三次市教育委員会 学校教育課 新谷勝治 指導主事>

- ・具体物がペアで 1 セットであったため、自然とペア学習ができていた。
- ・デジタルコンテンツで、色分けをした提示が有効であった。
- ・表にまとめることが効果的であった。表の項目については、児童に考えさせてもよかった。
- ・ノートを丁寧にまとめることができていた。

<広島県北部教育事務所 教育指導課 山口美穂 主任指導主事>

- ・集団だけでなく個々の生徒を育てる視点を持つ。
- ・通過率 30%未滿の児童生徒への「実態・手立て・効果」をまとめる。
(例：具体物の提示、印や色分け、型の提示など)
- ・教師が提示したものが児童生徒のものになっているかなど、課題設定が大切である。
- ・学んだことをいろいろな状況で使えるような知識 (= 「生きた知識」) を習得させる。
- ・「脚下照顧」→今年度もまだ年度末まで時間があり、今できることを精一杯取り組む。



.....
* 今後について、以下の 3 点をよろしくお願いします。

- ①第 5 回スタディ・ウィーク【2/16 (木) ～2/23 (木)】
- ②各研究授業の評価問題のまとめ
- ③個別の指導計画の 3 学期分の加筆

★どの教科にもつながる点★

- ①具体物の操作や提示
- ②思考を深めるための発問の精選
- ③学習課題の提示の工夫